

すべての仲間の賃上げで、物価高騰から くらしと地域経済をまもろう！ 春闘を元気にたたかい、大幅賃上げを勝ち取ろう！

金属・製造・情報・通信関連で働く仲間みなさん

いよいよ24春闘が始まります。いま、異常な物価高がわたしたちのくらしを直撃しています。食料品をはじめ生活必需品の値上がりは23春闘以降も続いており、実質賃金は18ヶ月も連続して前年同月を下回っています（23年9月現在）。「物価高騰からくらしをまもりたい。大幅に賃上げしてほしい」とすべての仲間が切実に願っています。24春闘では、今年こそ大幅賃上げを勝ち取らなくてはなりません。

日本の賃金の異常な低さは日本社会にさまざまな歪みやゆきづまりをつくりだしています。異常な低賃金によって国内の消費購買力は弱まり、経済成長の足かせとなっています。低賃金や労働者使い捨ての人事政策により多くの企業では人材が流出して技術・技能が継承できず、国際競争力が急速に低下しています。地方では都市部との賃金格差による若者を中心に人口流出が深刻となっています。急速にすすむ少子化も、若者が結婚や子育てに希望をもつことができないことに根本的な原因があります。

すべての労働者の賃上げで物価高騰からくらしをまもるために、24春闘では、賃上げを願うすべての国民の思いを総結集し元気にたたかみましょう。また、政府に対し、全国一律の時間額1500円の最低賃金の早期実現を迫りましょう。

岸田内閣は、国民が物価高騰でこれだけ苦しんでいるにもかかわらず、アメリカ政府のいいなりに兵器を爆買いし、5年間で総額43兆円も軍事費（防衛費）を増額しようとしています。また、「台湾有事への備え」を口実に「敵基地攻撃能力の保持」など「戦争をする国づくり」を進めています。税金は軍備拡大より医療や年金、教育など国民のくらしにこそ使うべきです。

いま、賃上げを求める声のひろがりにあわせて、労働組合への期待や共感が大きくひろがっています。「労働組合はストライキで存在感を示せ」（朝日新聞）などマスコミの論調も変化しています。こうした世論の変化を追い風にして攻勢的に春闘に打って出れば大幅賃上げは可能です。

すべての労働者の賃上げを実現するために、共同の輪を大きくひろげましょう。そして憲法がいき、人間らしく暮らせる社会を実現しましょう。そのために、次の共同行動をよびかけます。

(1) 「金属労働者のつどい」を東日本・西日本で開催します。

東日本 3月 2日（土） 東京都港区 青山公園南地区・多目的ひろば

西日本 3月 3日（日） 大阪市 エル・おおさか（府立労働センター）

(2) 労働組合の日常活動、リストラ、経営問題、労働法制改悪への対応などについて学習・交流をおこないます。

(3) 「春闘アンケート」など情報交換と相互激励を可能な限りおこないます。

以上の共同へのとりくみと、「24春闘をともにたたかう金属労組懇談会」への貴労組・団体の賛同・参加を心からよびかけます。

2023年11月13日

24春闘をともにたたかう金属労組懇談会

まじめな労働運動を考える金属労働組合懇談会

（ダイハツディーゼル労組・オルガン針労組・荏原合同労組など）

JMITU（日本金属製造情報通信労働組合）